

〔様式 1〕

## 事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月19日			
平成15年度	事業コード	21210	電話	042 - 769 - 8245
担当部課名	環境事業部	ごみ減量推進	課	リサイクル 班
事務事業名	リサイクルスクエア運営事業			

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第 1 章	人と自然にやさしい地域社会をつくれます	事業開始年度
基本施策名	第 2 節	リサイクル型社会の構築	5 年度
施策名	第 1 施策	リサイクルシステムの構築とごみの資源化・資源化の推進	

## 2 実施根拠及び関連法令等

相模原市リサイクルスクエア事業実施要綱
---------------------

## 3 事務の区分

自治事務
------

## 4 経費の区分

その他の経費
--------

## 5 事務事業の分類

市単独事業
-------

## 6 受益者負担

なし
----

## 7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
ごみの資源化・減量化のために、家庭で不要となった日用品の再使用を通して市民のごみに対する理解を深めてもらうことを目的とする。	市内在住で中学生以上の市民
	対象数 511,477人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
年間展示日数 231日(通常月：1日から20日、1月：8日から20日、2月：1日から18日)	
年間来場者数 橋本台13,838人 新磯野14,538人	
展示品総数 橋本台 545点 新磯野 521点	
引取総数 橋本台 517点 新磯野 477点	
応募総数 橋本台 9,040件 新磯野 5,872点	
平均倍率 橋本台 16.6倍 新磯野 11.3倍	
(4)個別計画の概要	概要
計画名 相模原市新一般廃棄物処理基本計画	基本理念 ともにつくる資源循環型都市 さがみはら 基本方針 ごみの発生・排出を抑制する社会システムへの転換 市民、事業者の自主的な取組みを促すシステムづくり
計画年次 14 年度～ 22 年度	

## 8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

15,16年度は目標値

成果指標	指標名	指標式	指標設定の意図	指標の推移(年度)				
				12	13	14	15	16
	来場者の応募率	本年度応募者数÷本年度来場者数*100	リサイクルスクエア来場者の内、どの位の人が実際に展示品に応募したかをみることで展示提供品へのニーズをみる	73	65	53	55	55
	展示品の引取率	本年度引取数/本年度展示数*100	粗大ごみに出された家具が再使用されることでごみ減量に直結する度合いをみる	91	91	93	93	93

## 9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

事業費	平成12年度 決算	平成13年度 決算	平成14年度 決算	平成15年度 予算	平成16年度 予算(見込み)
人員・時間数	2人・0.3日	2人・0.3日	3人・0.3日	3人・0.3日	3人・0.3日
人件費	3,207	3,207	5,724	5,724	5,724
その他経費					
合計	14,697	15,629	33,959	40,115	40,115
特定財源					
対象数	518,773	510,853	511,477	511,477	511,477
対象の単位あたり経費	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1

10 個別評価

(1)達成度 評価 B ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	リサイクル家具の提供数も減少し、質も低下している。市民がものをより大事に使っているということになるので、好ましいことではあるが、展示事業としては、来場しても応募したいものが以前よりも減少している。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 粗大ごみの破碎・焼却・埋立はそれ自体環境負荷を伴うばかりか、物の経済的価値を終えさせることになる。現施設は容量の制約と提供数の減少で展示の大幅増(焼却・埋立の大幅減)は難しいが、リサイクル啓発効果は期待できる。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		説明
(4)効率性 評価 B ▼	A:優れている	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない リサイクル家具の提供数の減少により、運搬経費や家具の清掃に関する経費等はこの状態が続くならば、削減することも可能であることが判断できたため、平成15年度予算は見直しを図った。
(5)公平性 評価 A ▼	A:公平である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input checked="" type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	対象者を市内在住の中学生以上の市民とし、月1回の展示・抽選にするなど、機会の公平性が得られている。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ない	説明: 現在は清掃程度で使用できる家具をリサイクル品として提供しているが、将来的には修繕も行える体制を整備していくことでより広範囲なリサイクル品の提供を行えるようになる必要がある。	手段	リサイクル家具の提供数の減少により、運搬経費や家具の清掃に関する経費等はこの状態が続くならば、削減することも可能であることが判断できたため、平成15年度予算は見直しを図った。
		削減額	千円

11 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較
今後の進め方		県内19市の中で、同様の事業を実施している市は14市、未実施は5市のみであり、県内でもかなり浸透している事業であると言える。また、リサイクル家具を無料またはいくらかの寄付金のみで提供しているのは、実施市14市中、本市を入れて5市のみであり、将来的には修繕も行える体制を整備して、より広範囲なリサイクル品の提供を行えるよう検討も必要であるだろう。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	民間リサイクルショップが隆盛となりつつある昨今、粗大ごみ有料化による発生抑制との相乗効果により、今後しばらくは質・量ともにリサイクル品を取り巻く環境は厳しい状況が予想される。さらに、修繕過程を見学させる等の啓発施設としての機能の充実を図るなかで発展的に継承されていく必要がある。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント

--